

(公社) 日本地すべり学会関東支部 平成 27 年度第 2 回現地検討会開催報告

1. 実施概要

- (1) 開催日：平成 27 年 10 月 16 日（金）
- (2) 開催場所：山梨県南巨摩郡身延町三澤 楠田（くすんた）地区
- (3) テーマ：平成 19 年台風 4 号により活動が活発化した山梨県楠田地すべり
- (4) 主催：(公社) 日本地すべり学会 関東支部
- (5) 協力：山梨県森林環境部治山林道課，峡南林務環境事務所，国土防災技術(株)山梨支店
- (6) 講師：芦沢 孝之（山梨県峡南林務環境事務所），児玉 卓也（国土防災技術(株)山梨支店）
- (7) 参加人数：20 名（学会正会員 13 名，非会員 7 名）

2. 現地検討会の内容

楠田地すべりは新第三紀中新世御坂層群のうち桃ノ木累層に位置し，周辺には泥岩と淡灰色の凝灰質砂岩，硬質な珪質凝灰岩が露頭する。ボーリング調査の結果すべり面は風化破碎泥岩の内部および底部に確認されている。

当地区では平成 18 年春より源頭部に段差地形が確認されるようになり，全長 280m に及ぶ滑落崖を形成するまでに拡大した。その後平成 19 年 7 月には台風 4 号がもたらした豪雨により大規模な地すべりが発生し，当時の変位量は最大 30mm/日に及んだ。無降雨時にも活動していたが，平成 19 年度災害関連地すべり防止事業で排土工を実施したことで，地すべり活動は沈静化に至った。その後，集水井工，集水ボーリング工の施工を経て，現在は鋼管杭工等が順次施工されている。

本検討会では，事務所内にて山梨県峡南林務環境事務所治山林道課の芦沢氏，国土防災技術（株）山梨支店の児玉氏から地すべり発生時の状況や対応，調査結果，対策工の方針などについてご説明いただいた。その後，楠田地区に移動し地すべり地内外の様子や排土工，集水井工などの対策工施工状況を見学した。質疑応答の際は斜面傾斜に対して地すべりの移動方向が斜交していることや，昭和末期に活動した周辺の地すべりブロックとの関連性などについて意見が交わされた。

3. おわりに

本検討会では，第 1 回現地検討会（伊豆大島）に引き続き，学生からベテランの技術者に至るまで多くの皆様にご参加頂いた。関東支部では，今後も防災教育や学生・若手技術者の育成をテーマとした活動を実施していく予定である。

本現地検討会の開催にあたり，御協力頂いた山梨県森林環境部治山林道課，峡南林務環境事務所，国土防災技術(株)山梨支店の関係者各位には大変お世話になりました。ここに記して，厚く御礼申し上げます。

参考文献

五味聖二，児玉卓也，大坪俊介（2008）：山梨県富士川流域で発生した楠田地すべりの移動特性，第 47 回日本地すべり学会研究発表会講演集，pp. 39-40.



写真-1 楠田地すべりの概要説明状況



写真-2 集水井工の視察状況



写真-3 現地見学終了時の集合写真

(関東支部幹事会 齊藤雅志・林 一成)